

高齢者呼吸器感染症に対するloracarbefの臨床的検討

石井芳樹・北村 諭
自治医科大学呼吸器内科*

新経口カルバセフェム系抗菌薬loracarbefを高齢者の呼吸器感染症症例に使用し、臨床的にその有用性および安全性を検討した。疾患は、急性気管支炎5症例であり、有効3例、やや有効1例、無効1例と良好な成績が得られた。自・他覚的な副作用は認められず、投与前後で臨床検査値にも異常な変動はみられなかった。本剤は高齢者の呼吸器感染症に対しても安全に使用でき、臨床効果も期待しうるものと考えられた。

Key words : loracarbef, 呼吸器感染症

Loracarbef(LCBF)は、新しく開発された経口用カルバセフェム系抗菌薬である。3位と4位にcefaclor(CCL)と同一の側鎖を有し、CCLに近似した化学構造を有しているが、CCLと比較し血中での安定性や経口での吸収性に優れているという特性を有する^{1,2)}。

抗菌スペクトラムは、CCLと同様にグラム陽性菌および陰性菌に対し広域であるが、特に臨床分離の*Escherichia coli*, *Klebsiella pneumoniae*に対してはCCLに優るといふ²⁻⁴⁾。

今回、著者らは、高齢者の呼吸器感染症に対して本剤を投与し、その有用性および安全性について臨床的検討を行い若干の知見を得たので報告する。

対象は、平成2年1月から6月までに外来受診した軽症ないし中等症の呼吸器感染症患者であり、年齢は、55歳から67歳(平均62.4歳)の5例(男性4例、女性1

例)であった。疾患は、全例とも急性気管支炎であり、基礎疾患として2症例に、気管支喘息、1症例に陳旧性肺結核を認めた。

LCBFの投与方法は、1日600mgを3回に分けて食後経口投与し、全例14日間継続した。本剤の使用前後において臨床症状を検討するとともに、血液検査、喀痰細菌検査を行い、臨床効果を判定し、安全性を検討した。

臨床効果の判定は起炎菌の消長、喀痰量、喀痰性状、発熱、白血球数、CRPの経過から、著効、有効、やや有効、無効の4段階で判定した。安全性は副作用の有無および臨床検査値異常について本剤との関連性を検討した。Table 1に症例の一覧と臨床効果を、Table 2に本剤投与前後の臨床検査値を示す。以下個々の症例を呈示する。

Table 1. Clinical effects of loracarbef

Case no.	Age (y) Sex	Diagnosis	Dosage		Isolated organism	Cough	BT (°C)	Sputum (volume)	WBC	ESR (mm/h)	CRP	Clinical effect	Adverse effect
		Underlying disease	mg × times	days									
1	65 M	acute bronchitis	200 × 3	14	<i>H. influenzae</i>	++	37.0	PM (++)	5900		2.60	poor	none
		bronchial asthma				+	36.2	PM (+)	6400	63	4.43		
2	66 M	acute bronchitis	200 × 3	14	normal flora	++	37.5	PM (++)	6800	8	0.030	good	none
		bronchial asthma				+	36.4	M (+)	5800	12	0.020		
3	59 M	acute bronchitis	200 × 3	14	normal flora	+	35.9	PM (+)	7600	6	0.141	good	none
						-	35.6	(-)	5300	2	0.014		
4	67 F	acute bronchitis	200 × 3	14	<i>H. influenzae</i> normal flora	++	37.2	PM (++)	9200	45	0.545	good	none
						-	36.5	(-)					
5	55 M	acute bronchitis	200 × 3	14		+	37.0	PM (++)	6400	13	0.257	fair	none
		old tuberculosis				+	36.5	M (+)	7500		0.075		

*〒394-04 栃木県河内郡南河内町薬師寺3311-1

Table 2. Laboratory findings before and after treatment with loracarbef

Case		RBC (10 ⁴ /mm ³)	Hb (g/dl)	Ht (%)	WBC (/mm ³)	Differential count (%)					Platelet (10 ⁴ /mm ³)	GOT (IU/l)	GPT (IU/l)	ALP (IU/l)	Total Bil. (mg/dl)	BUN (mg/dl)	S-Cr (mg/dl)
						Ba.	Eo.	Neu.	Ly.	Mo.							
1	B	421	13.0	39.4	5900	2	11	68	14	5	23.3	18	10	197	0.32	14	0.9
	A	442	13.0	39.3	6400	0	6	52	37	5	37.7	35	38		0.27	13	0.9
2	B	463	14.1	42.2	6800	0	7	66	22	5	27.9	17	20		0.51	18	1.1
	A	482	14.2	43.8	5800	0	7	66	22	5	26.5	20	22			15	1.0
3	B	492	16.4	48.2	7600	0	0	79	17	4	25.2	17	17	208	0.51	18	1.0
	A	484	15.9	48.4	5300	0	1	73	24	2	25.7	18	18		0.42	20	1.0
4	B	414	12.7	38.8	9200	0	3	69	23	5	34.7	14	8	281		13	0.8
	A																
5	B	480	14.7	43.9	6400	2	0	68	24	4	27.4	19	16			17	1.0
	A	498	15.4	45.4	7500	0	1	56	37	5	28.0	33	22			19	0.9

B: before treatment

A: after treatment

症例1: 65歳男性。気管支喘息にて気管支拡張薬による治療中の症例。コントロールは比較的良好であったが、発熱、喀痰、咳嗽の増加とともに喘息発作が出現するようになり来院。本剤の使用を開始した。投与後解熱はみられたが、喀痰・咳嗽は、あまり改善せず、2週間後の血液検査でもCRPの改善は見られなかったため臨床効果は無効と判定した。喀痰検査では、投与前*Haemophilus influenzae*を認めたが、投与後は、検査を施行できなかったため細菌学的効果は、不明であった。副作用は認めなかった。

症例2: 66歳男性。症例1と同様な経過で本剤の使用を開始した。投与開始後、解熱、喀痰・咳嗽の減少が見られたため有効と判定した。副作用は、特に認めなかった。

症例3: 59歳男性。基礎疾患なし。発熱、膿性痰、咳嗽を訴えて受診。細菌性の急性気管支炎と考えて本剤の投与を開始した。喀痰の消失等の臨床症状の改善を認めたため有効と判定した。細菌学的効果は不明であるが、血液検査にてCRPの改善が見られた。副作用は見られなかった。

症例4: 67歳女性。発熱、咳嗽・喀痰を主訴に外来受診。急性気管支炎の診断にて本剤使用開始。投与前の喀痰検査で*H. influenzae*が検出された。臨床症状および細菌学的所見の改善を見た。副作用は、特に認めなかった。

症例5: 55歳男性。陳旧性肺結核による慢性呼吸不全にて外来通院中。喀痰、咳嗽が増加し来院。呼吸器感染による呼吸不全の増悪と考え本剤を使用した。喀痰量の減少等の臨床症状に軽度の改善がみられ、血液

検査ではCRPの改善が認められた。副作用は、特に認めなかった。

以上5症例のうち臨床効果は、有効3例、やや有効1例、無効1例と判定した。血液検査では、CRP値が3例で改善し、1例で悪化、1例は不明であった。細菌学的検査では、投与開始前に検査を施行しえた4例のうち2例に*H. influenzae*を認めた。このうち1例は、投与後、起炎菌の消失を認めたが他の1例は、検査が施行できず菌の消長は不明であった。残りの2例は、投与開始前の喀痰検査では、normal floraのみで起炎菌は検出されなかった。消化器症状や中枢神経症状、発疹などの副作用は、全く認められなかった。臨床検査値も投与前後で検討しえた4例全例において肝機能、腎機能に異常を認めなかった。

今回、高齢者の呼吸器感染症に対して本剤の有効性および安全性を検討した。検討症例が少ないため臨床効果、細菌学的効果について十分な結論を下すことは困難であるが、軽症ないし中等症の呼吸器感染症に対して高齢者においても外来で安全に使用できる薬剤であり、臨床効果および細菌学的効果も十分に期待するものと考えられた。

文 献

- 1) Matsukuma I, Yoshiye S, Mochida K, Hashimoto Y, Sato K, Okachi R and Hirata T: Synthesis and biological evaluation of 3-chloro-1-carbacephem compounds. Chem Pharm Bull 37: 1239-1244, 1989
- 2) 大森弘之, 原 耕平: 第40回日本化学療法学会西日本支部総会, 新薬シンポジウム。

- KT3777, 岡山, 1992
- 3) Sato K, Okachi R, Matsukuma I, Mochida K and Hirata T : *In vitro* and *in vivo* antibacterial activity of KT3777, a new orally active carbacephem. J Antibiotics 42 : 1844 ~ 1853, 1989
- 4) Cao C, Chin NX and Neu HC : In-vitro activity and β -lactamase stability of LY163892. J Anti-microb Chemother 22 : 155~165, 1988

A clinical study of loracarbef in aged patients with respiratory infections

Yoshiki Ishii and Satoshi Kitamura

Department of Pulmonary Medicine, Jichi Medical School

3311-1 Yakushiji, Minami-Kawachi-machi, Kawachi-gun, Tochigi 329-04, Japan

We clinically evaluated loracarbef (LCBF), a new oral carbacephem, in aged patients with acute bronchitis.

The response to LCBF was "good" in 3, "fair" in 1 and "poor" in 1.

None of the patients presented adverse reactions or abnormal laboratory findings.

The results of this study indicate that LCBF is useful in the treatment of aged patients with respiratory infections.